

2016年7月7日

日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、輸出・生産面に新興国経済の減速の影響がみられるものの、緩やかに回復している。

すなわち、設備投資は、増加基調にある。個人消費は、一部で改善の動きに鈍さがみられるものの、全体としては堅調に推移しているほか、住宅投資は、持ち直している。輸出は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、下げ止まりつつある。こうしたもとで、生産は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。この間、在庫はやや高めの水準となっている。雇用・所得環境をみると、雇用者数が増加し、名目賃金も緩やかに上昇する中で、雇用者所得は一段と改善している。企業の業況感は、幾分慎重化している。

先行きについては、海外経済や金融市場の動向などに注視が必要である。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、下げ止まりつつある。

輸出は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。

設備投資は、増加基調にある。

個人消費は、一部で改善の動きに鈍さがみられるものの、雇用・所得環境が改善するもとで、全体としては堅調に推移している。

百貨店販売額は、高額品販売を中心に弱めの動きがみられる。一方、スーパー販売額は改善の動きが続いている。乗用車販売、家電販売額は、改善の動きに鈍さがみられている。この間、外食売上高は堅調に推移しているほか、旅行取扱額も、国内旅行が堅調に推移したことから、前年を上回っている。

住宅投資は、持ち直している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。この間、在庫はやや高めの水準となっている。

生産を業種別にみると、金属製品や輸送機械が減少しているものの、電子部品・デバイスやはん用・生産用・業務用機械は増加している。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、労働需給が改善を続けるもとで、雇用者所得は一段と改善している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年並みで推移している。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、法人預金を中心に増加している。

貸出残高は、企業向けや住宅ローンの増加などを背景に前年を上回っている。

預金金利は、低水準横ばい圏内で推移している。

貸出金利は、小幅ながら低下している。

以 上